



2014年6月 第12巻第6号

### かく語りき—聖人の言葉

「恐れてはなりません。人として生まれることは苦しみに満ちており、神の御名を唱えながら辛抱強くすべてを堪え忍ぶのです。誰一人として、たとえ人に化身した神でさえも、肉体と心の苦しみから逃れることはできないのです」

(ホーリー・マザー シュリー・サーラダー・デーヴィー)

「義務に欠点があるからといってその義務を捨ててはいけません。火に煙が付く物であるように、すべての行動、すべての活動には欠点があるのだ」

(シュリー・シャンカラ)

### 今月の目次

- ・ かく語りき—聖人の言葉
- ・ 2014年7月の予定
- ・ スワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕150周年祝賀記念行事閉会式を開催

- ・ ラーマクリシュナ・マト・アンド・ラーマクリシュナ・ミッション プレジデント スワミー・アートマスターナンダジーからの祝辞

- ・ スワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕150周年祝賀記念行事 閉会式

「歓迎のご挨拶」

スワミー・メダサーナンダ

- ・ マハーラージの活動報告
- ・ 忘れられない物語
- ・ 今月の思想

### 今月の予定

・ 7月の生誕日・

グル・プルニマ 7月12日(土)

スワミー・ラーマクリシュナーナンダ 7月24日(木)

・ 8月の行事・

8月2日(土) 14:00 インド大使館講話  
8月7~9日 スワミー・マニラ訪問にて不在

8月16日(土) 17:30 シヴァナンダ・ヨーガセンターにて講話

詳細：<http://www.sivananda.jp/>

8月17日(日) クリシュナ生誕祭

協会本館にて 10:30~16:30

8月24日(日) 東京パドマ・ヨーガにて講話 お問い合わせ: 平野

padmayoga@padma-yoga.jp

パドマヨーガのホームページより詳細がご覧いただけます。

<http://www.padma-yoga.jp/kenshukai/index.html>

8月30~31日 今治市リトリート

お問い合わせ: 塩路 090-9452-1477

## スワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕 150 周年祝賀記念行事閉会式を開催

日本ヴェーダーンタ協会では、ラーマクリシュナ・マト・アンド・ラーマクリシュナ・ミッションの創設者であるスワミー・ヴィヴェーカーナンダの生誕 150 周年を祝賀して 1 年にわたり様々な記念行事を行ってきましたが、2014 年 5 月 25 日(日)、その締めくくりとなる閉会式を開催しました。インド大使館の変わらぬご支援のもと、清泉女子大学のご協力により同大学講堂にて式典を開催することができ、短いプログラムでしたが、多くの人の熱意に支えられた素晴らしい閉会式となりました。

この閉会式のために数週間前から、協会プレジデントのスワミー・メーダサーナンダジー(マハーラージ)と多数のボランティア・スタッフにより、スケジュール調整、式当日スクリーン

に映すスピーチの翻訳、会場内のレイアウトの決定など入念な準備が行われました。

5月25日、マハーラージとボランティア・スタッフは、式典開始の何時間も前に会場に集まって、スポットライトや音響機器、ステージ上のテーブルやステージ下のイスの設置、来場者への配布物をまとめた封筒の準備など、手分けして様々な作業を行いました。文化プログラムのダンサーやミュージシャンの方々も、早くから会場に入られ本番に備えて入念にリハーサルをされました。

講堂のロビーには、書籍とビデオの販売コーナーが設置され、ラーマクリシュナやヴィヴェーカーナンダに関する日本語と英語の本、写真、CD、カセット、お香などが割引価格で提供されました。また販売コーナーの反対側には、この 1 年に開催した祝賀記念行事の写真も展示されました。ロビー中央に設置された受付では、プログラム、協会発刊の雑誌『不滅の言葉 特別号』、スワミージーのインスピレーションに満ちた言葉をまとめた小冊子『立ち上がれ、目覚めよ』(日英記載)、『ヴィヴェーカーナンダの物語』の入った封筒を来場者一人一人に配布しました。ロビーのボランティア・スタッフは国際色豊かで、日本語以外にも様々な言語で来場者に対応しました。入場は無料

でした。



午後 3 時 30 分に開場し、午後 4 時に開幕しました。ステージ中央に横一列に並べられたテーブルには来賓講演者が着席され、ステージ前方の上手には額に入った等身大のスワミー・ヴィヴェーカーナンダのお写真が花束と共に飾られていました。ステージ前方下手に置かれたスピーチ台で、英語と日本語の司会者各 1 名が順番に自己紹介をして、最初のプログラムを紹介しました。2 名のスワミーと、クルタとサリーを着た男女の信者各 2 名がステージに出てヴェーダの平和の祈りを詠唱し、式典が始まりました。続いて、協会の子供たちからステージ上の来賓講演者に花束が贈呈されました。



そして、ラーマクリシュナ・マト・アンド・ラーマクリシュナ・ミッション

の事務総長スワミー・スヒターナンダジーが、マハーラージの介添えでスワミー・ヴィヴェーカーナンダのお写真に花束を奉獻しました。



ステージ中央上手のテーブルにはインド大使ディーパ・ゴパラン・ワドゥワ閣下とスヒターナンダジーが、中央下手のテーブルには東京大学名誉教授で中村元東方研究所理事長の前田専学教授がマハーラージと並んで着席されていました。これら来賓講演者の紹介の後、英語司会者である清泉女子大学の松井ケティ教授と日本語司会者の横田さつき氏が、スワミー・メーダサーナンダに、次のプログラム「歓迎の辞」のスピーチをお願いしました。

マハーラージは、1 年にわたり開催された祝賀記念行事を紹介し、日本各地だけでなく、設立間もないラーマクリシュナ・ヴェーダーンタ・ソサエティ・オブ・ザ・フィリピンズ (Ramakrishna Vedanta Society of the Philippines) とヴェーダーンタ・ソサエティ・オブ・サウス・コリア (Vedanta Society of South Korea) の協力の下フィリピンと

韓国でも記念行事が行われたことを報告しました。(マハーラージのスピーチは本ニュースレター6月号に全文掲載されています。)



次に、清泉女子大学理事長のシスター塩谷惇子教授も歓迎のご挨拶をされ、特に印象に残ったスワミーの言葉や、宗教思想がアジアや世界の人々の助けになるというご自身の考えを述べられました。



次に、ラーマクリシュナ・マト・アンド・ラーマクリシュナ・ミッションのプレジデント スワミー・アートマスターナンダ殿下のメッセージを、スヒターナンダジーと共にインドのベルル本部からお越しになったスワミー・シュバカラナンダジーが代読されました。(アートマスターナンダジー

のメッセージは本ニュースレター6月号に全文掲載されています。)そして、昨年6月に祝賀記念行事開会式を開催した折に安倍晋三内閣総理大臣閣下からいただいたメッセージを、協会書記の三田村賢一氏が代読されました。(安倍首相のメッセージはニュースレター2013年6月号に掲載されています。)

次に、書籍の披露が行われ、新刊『ヴィヴェーカーナンダの物語』(日本語訳版)をスワミー・スヒターナンダジーに、隔月発行の雑誌『不滅の言葉』特別号をワドゥワ閣下にご披露いただきました。

そして、日本語冊子『岡倉天心とスワミー・ヴィヴェーカーナンダ』を前田教授にご披露いただき、新版『カルマ・ヨーガ』をマハーラージが披露しました。





ワドゥワ閣下は来場者と来賓に挨拶の言葉を述べられ、祝賀会に関し主に二つのテーマについて話されました。初めに、「近代で最も偉大な識者の生涯を祝う行事が本当に終わることなどあり得るでしょうか」と言われ、メーダサーナンダジーが同じように感じていたことを嬉しく思われると仰いました。そして、祖国の同胞の魂を高揚させると同時に「全人類の高次の感情に響く、議論の余地のない信仰」を説いたスワームージーの偉業について話されました。その偉業の一つが「他人の宗教に対する敬意」を絶対的に持つという姿勢ですが、この点がお話の二つ目のテーマで、この閉会式の多宗教性はまさにその姿勢の表れであり、大使はこの点に感銘を受けられたようで、「世界の寛容性と相互理解」の育成においてスワームージーが果たした役割についてお話しになりました。さらに、スワームージーの次の言葉を引用されました。

続いて、来賓の講演者にスピーチをいただきました。初めに、インド大使ワドゥワ閣下にお話しいただきました。



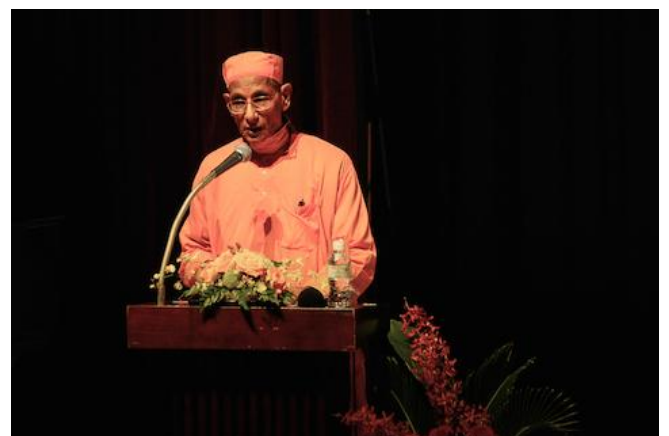
「私は、過去に存在したすべての宗教を認め、それらすべての礼拝を行う。それらの宗教が有形無形のどのような神を礼拝したのであれ、私はそれら一つ一つの神を礼拝する。私はイスラム教徒のモスクへ行こう。キリスト教徒の教会に入って十字架の前でひざまずこう。仏教寺院に入りブッダと仏法に帰依しよう。森に入って、すべての人のハートに霊性を授ける光を見出そうとするヒンドゥー教徒と共に座って瞑想しよう」さらにワドゥワ閣下は、ス

ワーミーが、「共通の文化的価値観と信仰」に基づいて日本とインドに密接な繋がりが生まれることを予測していたことにも言及され、スピーチを終えられました。

続いて、前田専學教授が紹介されました。前田教授は経験豊富な学者であられ、東京大学で修士号を、ペンシルベニア大学で博士号を取得された後、東京大学にてインド哲学の教授として教鞭を執られ、1991年に退官されました。現在は、中村元東方研究所理事長・東方学院学院長を務められています。スピーチでは、お子さんがまだ小さかった頃にご家族でインドに滞在されたこと、恩師とのインドの旅、旅先での出会い、シュリー・シャンカラの研究、そしてカニャークマーリー岬でワーミーについて思いを馳せたことなどを話されました。スピーチの最後に、1893年9月11日にシカゴ万国宗教会議でワーミーが聴衆に向かって語りかけた、「アメリカの兄弟姉妹たちよ」で始まるあの有名なスピーチを引用されました。(前田教授のスピーチは、ニューズレター8月号に掲載の予定です)

次に、スワーミー・スヒターナンダジーがスピーチをされました。来賓への挨拶を述べられた後、日本の信者の方々に対し、「私たちの兄弟僧であるメーダサーナンダジーを大切に愛情込め

てお世話くださり、心からお礼を申し上げます」と感謝の言葉を述べられました。(スヒターナンダジーのスピーチは、ニューズレター7月号に掲載の予定です。)そして、ご自身が入院された際に岡倉覚三(天心)の著書『Ideals of the East: The Spirit of Japanese Art (東洋の理想: 日本芸術の精神)』を読む機会を得たこと、同書からの引用と天心の主張、ラーマクリシュナ・ミッションの理想やミッション初期の関係者と相通じる点などについて話されました。さらに、生誕150周年を過ぎたなおスワーミー・ヴィヴェーカーナンダの思想や言葉は現代に通じることや、調和、人間社会、宗教、奉仕、平和など種々の分野におけるスワーミー・ヴィヴェーカーナンダの貢献について簡潔に述べられました。そして、世界の思想家らの言葉を引用しながら、スワーミーが彼らに与えた影響を話されました。



続いて、来賓からスワーミー・ヴィヴェーカーナンダに敬意を表す言葉をいただきました。初めに、バングラデシュ大使 マスト・ビン・モメン閣下

のメッセージを、バングラデシュ出身の祝賀会組織委員シュケン・ブラフマ氏に代読いただきました。モメン閣下は、お仕事の都合でご列席いただけませんでした。



次に、ネパール大使のマダン・クマール・バッタライ閣下が、スワームージーについて感銘を受けたことについてお話しになりました。バッタライ閣下はベルル・マトをたびたび訪れたことがあるとのことで、スワームージーが創設したラマクリシュナ・ミッションは「この偉大な聖者たる人物が世界に成した歴史的功績を讃える証しである」と仰いました。

続いて、アートオブリビング財団のスワームー・サッディオジャータハ師が、ヴェーダの平和の祈りを唱えてお話を始められました。師は、人生は複雑な贈り物であると言われ、永遠不変の解決策であるスワームージーの教えは世界の若者にとって貴重であることを、例を挙げながらお話しになりました。

「スワームージーが若者に託した夢を私達も持ち続けることによって世界は

進歩するに違いない」と述べられ、かつては迷信と見なされていたインド哲学をヴィヴェーカーナンダが実践的科学的な視点から解説したおかげで、インド哲学はこの世界で正当な地位に収まったと言われました。さらに、世界が今抱えている病や様々な問題の解決法はすべて、インド古典伝統のヴェーダーンタ、ヨーガ、サナータナダルマにあると仰いました。

次に、千葉県・能忍寺の山口博永老師が、スワームージーに向かって語りかけるかのようにお話しになり、今日まで自分を鼓舞し続けてくれたスワームージーに感謝の言葉を述べられました。師は幼少のころに無常を感じ、18歳の時、ブッダの「天上天下唯我独尊」の言葉に出会って禅門に出家をされたとのことで、その後、ある一人の旅の修行僧を通じてスワームージーのメッセージを知ったそうです。その言葉を受け入れて真に理解したのはしばらく後ではあったものの、それ以来スワームージーが自分を「ずっと加護し続けて下さっている」と深く信じていらっしゃるとのことでした。スワームージーの言葉の中で最も勇気づけられたものは、「私は改革を信じない。霊性の向上を信じる」であったと言われ、スワームージーこそ「大乘の大菩薩さま」と述べられました。そして、「これからもどうぞ、あなたさまのご縁のもとに、志あるものが一人でも多く学ばせてい

ただけますよう」にと言われました。

続いて、上智大学教授のシリル・ヴェリヤト神父が、来賓と来場者に挨拶の言葉を述べられ、ご自身が大学生の頃、スワージーについて書かれた本に初めて出会ったことを話しになりました。そして、15世紀に書かれた本『キリストに倣いて』から数段落をスワージーがベンガル語に訳したことを知って驚いたそうです。また、「宗教は教義的、抽象的なレベルに留まっていたはいけない」という考えをスワージーが強く信じていたことを賞賛されました。さらに、ローマのフランシスコ教皇が多くの人々の苦しみについて言われたお言葉「人権はテロリズム、抑圧、暗殺だけではなく、偏った経済構造が大きな不平等の原因となっている」を引用され、このお言葉が100年以上も前にスワージーがシカゴでスピーチした叡智の言葉を思い起こさせると述べられ、スワージーの次の言葉を引用されました。「宗教の派閥、偏狭な考え方、その末裔、狂信主義、は長い間この美しい地球を占領してきた。このような考え方は地球を暴力、流血、文明の崩壊、そして国民を絶望させてきた。このような悪が蔓延していなければ、人間の社会は現在よりはるかに発展していたであろう」最後に、今日の世界に必要なのは、スワージー・ヴィヴェーカーナンダのような人が数多く出現するという奇跡であると

述べられました。

最後に登壇されたのは、サティアサイ教育協会理事長で在日印度商工会議所理事長であられる比良竜虎氏でした。比良氏は、このような機会に最後のスピーカーとしてお話しでき光栄であると述べられ、「日本サティアサイ教育協会の全ての教師を代表いたしましてスワージー・ヴィヴェーカーナンダの蓮華の御足に心からのお祈りをお捧げ致します」と言われ、また、協会の活動との関わりや支援についても言及されました。そして、教育についてスワージーの「信念なき教育は不毛である」という言葉を引用され、今日の若い世代は根気強さを誤用しているため、身体的・精神的に弱くなり自分自身をも見失う結果となっていると言われました。力強い新たな日本を再興するためには、スワージーの「信念と忍耐の教育」がカギであると言明されました。

スワージーへの敬意の言葉が終わると、司会者から、10分間の休憩とし、その間にステージで次の文化プログラムの準備が行われるとのアナウンスがありました。また、ロビーの販売コーナーでは割引価格で購入できる旨案内もありました。さらにロビーでは、レストラン「スパイス・マジック」のジャグモハン・チャンドラーニ氏から約400名の来場者全員にチャイが振る



舞われました。

休憩時間が終了し、来場者はまだ全員席に戻っていませんでしたが、文化プログラムが開幕しました。泉田シャンティ氏のグランドピアノとディネシュ・チャンドラ・ディヨンディ氏のタブラによる伴奏で、協会の信者とヨーガスクール・カイラスの皆さんの総勢約30名により、ベンガル語の賛歌「ラーマクリシュナ・シャラナン」が披露されました。



次に、安延佳珠子氏と同氏のインド舞踊スタジオ Studio Odissi の4名のダンサーに、東インドの古典舞踊オリッシーをご披露いただきました。



ダンスが終了すると、ステージのカー

テンが下ろされ、カーテン裏では次の文化プログラムの準備が進められました。その間、祝賀会組織委員会書記のジャグモハン・チャンドラーニ氏が登壇され、感謝の辞を述べられました。チャンドラーニ氏は、「楽しい事には終わりがある」という諺を引用され、ご来賓の方々、来場者の皆様、そして1年にわたり協会の祝賀記念行事を支えてくださったボランティア・スタッフの方々に、心からの感謝を述べられました。

続いて再びカーテンが開き、ステージには高名なシタール奏者のアミット・ロイ氏が、タブラ奏者のパンディット・ラリット・クマール・ディクシート氏とタンプーラ奏者のミズタタカノリ氏と共にスタンバイされていました。そして、ロイ氏が選曲された美しい旋律の古典的ヒンドゥスターニ・ラーガ「Tilak Kamod」のアンサンブル演奏を約20分間ご披露いただきました。演奏が終了すると、会場は拍手喝采に包まれました。



その後カーテンが下り、閉会式が終了

となりました。会場の出口では、「スパイス・マジック」からにご提供いただいた軽食のお土産が来場者全員に配られました。

## ラーマクリシュナ・マト・アンド・ラーマクリシュナ・ミッション プレジデント スワミー・アートマスターナンダ からの祝辞

2014年4月26日

日本ヴェーダーンタ協会が、2014年5月25日に東京・清泉女子大学で開催されるスワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕150周年記念祝賀行事の閉会式にて、協会の隔月誌『不滅の言葉』特集号を披露されると知り、大変嬉しく思います。

スワミー・ヴィヴェーカーナンダは、直接経験という確固たる根拠を基に「諸宗教の調和」の概念を提唱しました。人種や宗教、性別にとらわれないこの概念は、師であるシュリー・ラーマクリシュナから得たものです。スワミーは、全人類がより高い霊的ゴールに向かって進んでいくのを見、人間の気質に違いがあることを認めながらも、この違いに関わらずすべての宗教の道が究極の目的に通じていると述べました。ある講演の中でスワミーはこう言っています。「もし普遍

の宗教があるとすれば、それは特定の時代や場所にだけ存在するのではなく、それ自らが説く神のように無限であり、その太陽はクリシュナの信者もキリストの信者も聖者も罪人も等しく照らすであろう。それはバラモン教でも仏教でもキリスト教でもイスラム教でもなくこれらすべてを合わせたものであり、なお無限の発展の余地がある宗教だろう…」

シュリー・ラーマクリシュナ、ホーリー・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィー、スワミー・ヴィヴェーカーナンダに真摯に祈ります。皆様方に最高の祝福が注がれますように。そしてこの特集号が、聖なる御三方の永遠普遍のメッセージを日本に広める一助となりますように。

スワミー・アートマスターナンダ  
プレジデント  
ラーマクリシュナ・マト・アンド・ラーマクリシュナ・ミッション

**スワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕150周年祝賀記念行事 閉会式**  
**2014年5月25日 清泉女子大学講堂**  
**歓迎のご挨拶**  
**スワミー・メーダサーナンダ**

ご友人の皆様、自然界になぞらえて申し上げますと、1893年、初めて世界の檜舞台に登場したスワミー・ヴィヴ

エーカーナンダは、一大センセーションを巻き起こした彗星のようでした。それ以来、スワームジーのメッセージは輝ける太陽の如く、無知と弱さが染み付いた数多（あまた）の魂を照らし、力と勇気を与え続けてきました。また、頭上に広がる分かつことのできない空のようにこの世界を一つにすべく、相反する要素に調和をもたらす術（すべ）を与えています。そして、北極星のように輝いて、道に迷った人類を正しい道へと導いています。その結果、その影響は、ある時は力強く、またある時は静かに、インドのみならず世界の思想界に変革をもたらしてきました。

スワームジーの比類なき貢献は、生誕 150 周年祝賀記念行事を機に、日本など数多くの国の皆様に公式非公式を問わず認められつつあります。日本では、一連の記念行事が一年にわたって開催され、本日のこの閉会式を以て終了となります。

ご友人の皆様、インドに本部を置くラーマクリシュナ・ミッションの支部である日本ヴェーダーンタ協会が組織した祝賀委員会を代表し、また私自身の思いも込め、本閉会式にご来場いただきました皆様を心から歓迎いたします。

本日は、ラーマクリシュナ・マト・インド・ラーマクリシュナ・ミッション

の事務総長であられるスワーム・スヒターナンダジー猊下にご参列いただくという祝福に恵まれました。ご多忙中にもかかわらずこうしてスヒターナンダジーにお越しいただけましたことは大変喜ばしく、また心の高揚を感じずにはられません。スヒターナンダジーを心から歓迎いたしますと共に、後ほどスワームジーについてお話しくたぐのを楽しみにしております。

また、光栄にもインド大使ディーパ・ゴパラン・ワドゥワ閣下にも主賓としてご臨席を賜り、喜ばしい限りです。スワームジー生誕 150 周年祝賀記念行事として一年間様々なプログラムや行事を開催してまいりましたが、大使閣下のご指導の下、インド大使館には常にご支援ご鞭撻をいただきました。大使閣下を心から歓迎いたします。

さらに、インド哲学をご専門とされる、中村元東方研究所理事長で東京大学名誉教授であられる前田専學教授にもご列席いただきました。前田教授を心から歓迎いたします。教授は非常に優れた学者であられ、先日、インドのパドマ・シュリー勲章を文学・教育分野において受章されました。本日は、光栄にも前田教授にメインスピーカーとしてスピーチをいただきます。

釈迦は仏教徒のためだけの存在ではなく、イエス・キリストはキリスト教

徒のためだけの存在ではなく、ムハンマドはイスラム教徒のためだけの存在ではありません。いかなる物質的遺産と比しても、彼ら全員が、人類の遺産の中で最も貴重な遺産なのです。同様に、ヴィヴェーカーナンダはインドに生まれたヒンドゥー教の僧侶ではありますが、すべての人々のための存在です。スワームジー・ヴィヴェーカーナンダ生誕 150 周年記念祝賀行事が世界各地で開催されましたが、年齢や職業、信仰、洋の東西を問わず様々な人々が集まって、インスピレーションの源となったスワームジーの神聖な思い出に敬意を表するのを目にしてきました。

本日の集まりはそれ程大きなものではありませんが、様々な経歴を持つ方々が一堂に会してこのプログラムにご参加くださいました。皆様全員を心から歓迎いたします。また本日は、ネパール大使 マダン・クマール・バッタライ閣下、千葉県能忍寺 山口博永老師、祝賀委員の中で最も熱意があり対応力の豊かなメンバーであるイエズス会神父で上智大学教授 シリル・ヴェリヤト神父、インドに本部を置くアートオブリビング財団 スワームジー・サッディオジャータハ師、サティアサイ教育協会および在日印度商工会議所理事長 比良竜虎理事長など、各方面で活躍されるご高名な方々、様々な宗教の方々から、スワームジーに捧げるお言葉をいただきます。

日本でこの祝賀会を開催することには特別な意義があります。というのも、ご存じのことと思いますが、スワームジーは 1893 年、宗教の調和について見事な演説をして歴史に名を残したあのシカゴの第一回万国宗教会議に向かう途中、この国を訪れました。彼は、日本とその国民や文化に対し深い愛情と深遠な認識を持ち、自国の同胞、とりわけ若者に、自らの目を見た日本人の優れた特質を吸収して欲しいと願いました。

日本の著名な美術評論家で学者の岡倉天心は 1902 年、スワームジーを招いて日本再訪を実現させようと渡印し、一定期間スワームジーのところに滞在しました。しかし、スワームジーの個人的な世話により、協会の本部であるベルル・マトの僧院で、サンスクリットを学ぶためにブラフマチャーリのように約五ヶ月間暮らし、その後ラビンドラナート・タゴールの個人的な世話によりシャンティニケタンのブラフマチャーリヤ・アシュラムに住んだ最初の外国人が、天心と共に渡印した日本人青年 堀至徳であったことをご存じの方は多くないでしょう。彼は、スワームジーにもタゴールにも大変かわいがられました。

スワームジーは、明治天皇を始めとする高名な日本人から招待を受けながらも日本再訪を果たせませんでした。

肉体を離れるその日でさえも日本のことを考えていたことは、スワーミーが1903年7月4日に述べた「日本のために何かをしたい」という意味深い言葉から明らかになっています。

スワーミーの訪日と、天心と堀至徳の訪印は、現代の日印交流の架け橋の礎となり、広く影響を与えました。そしてその礎は、詩人ラビンドラナート・タゴールを始めとするインドと日本の傑出した人物らによりさらに強められたのです。

今日の日本は、自信を取り戻し、個人の生活と国家の生活のために目標を定め、その目標の達成に取り掛かる火急の必要に迫られています。このことは、この生誕150周年祝賀記念行事の開会式に安倍晋三内閣総理大臣から頂戴した祝辞にも述べられております通りです。この点について、道徳的霊的価値観に基づき自信と平安、調和を謳（うた）うスワーミーの魂を揺さぶるメッセージは、日本の皆様にとって非常に貴重なものとなり得ましょう。

こうしたことから祝賀委員会では、日本の皆様にスワーミーの思想をよく知っていただくために全国各地で一年にわたり様々な行事を開催するという大胆な計画を立ち上げ、種々のプログラムやプロジェクトを策定しました。限られたリソースにもかかわらず、そ

のほとんどを実施することができました。では、それらの行事を簡単にご紹介いたします。

生誕150周年祝賀記念行事の開会式は、2013年6月9日にインド大使館で開催され、光栄にもインド大使ワドゥワ閣下に主賓としてご臨席いただきました。ヴェーダーンタ・センター・オブ・グレート・ワシントンDCの長であられるスワーミー・アートマギヤーナーナンダジーと、ご高名な学者であられる奈良康明教授がメインスピーカーでした。文化プログラムでは、ランジャン・グプタ氏の監督による「スワーミー・ヴィヴェーカーナンダの愛」をテーマにした歌、朗読、ビデオクリップなどで構成された作品などが披露されました。

2013年11月30日には、関西地区の方々のために大阪で同様のプログラムが開催されました。メインスピーカーは、在大阪・神戸インド総領事アシーム・マハージャン閣下、在日インド商業会議所会頭のJ・S・ダヤル氏、日本ヨーガ療養学会理事長の木村慧心氏、京都大学教授の田辺明生教授でした。また、2014年4月12日には九州地区の方々のために熊本でも同様のプログラムが開催されました。メインスピーカーは、著名な作家で平和運動家の正木高志氏と私、スワーミー・メーダサーナンダでした。

日印関係の歴史と、スワミー・ヴィヴェーカーナンダの生涯やメッセージを主に紹介する展示会が、2013年9月28日～29日、東京・代々木公園でのインドフェスティバル「ナマステ・インディア」にて開催され、初日のテープカットを森喜朗元首相にいただきました。また、この展示会はインド大使館アートギャラリーでも開催され、テープカットをインド大使ワドゥワ閣下に行ってくださいました。一般公開は2014年4月3日～6日で、多くの方々が来訪されました。

インド大使館では、2014年3月26日に、タゴール生誕150年記念会とディスカバー インディア クラブ、協会の共催により、「スワミー・ヴィヴェーカーナンダと岡倉天心」をテーマにセミナーも開かれました。インド大使ワドゥワ閣下に開会の辞を賜り、ヴェーダーンタ・ソサエティ・オブ・ボストンのスワミー・ティヤガーナンダジー、上智大学の平野久仁子博士、東京大学の冨澤かな博士、天心のひ孫である岡倉登志教授、スワミー・メーダサーナンダがメインスピーカーでした。

さらに協会では、生活に困窮されている方々に対し冬物の衣類と果物を配布しました。これは、「貧しい人々を神と見なして仕えなさい」というスワミーの教えに基づいた活動です。

協会はまた、スワミーに関する書籍四冊とDVD一枚を発行しました。また、思慮深い記事や写真を多数掲載した隔月日本語雑誌の特別号を二冊発行しました。さらに、スワミーに関して、インスピレーションに富む有益な日本語書籍を数百冊発行して、前述の祝賀行事で配布するとともに、インド大使館と協力して教育機関や公共図書館に置いていただきました。

こうした活動はすべて、精神を高揚させるスワミーの思想を道しるべとして叡智と力、平安に満ちた理想的な人生を送れるよう、日本の皆様にスワミーの思想を知っていただくことが目的なのですが、多くの方々のご尽力ご協力のおかげで、また何よりもスワミーの恩寵により、この目的が概ね達成されましたことは誠に喜ばしい限りです。

また協会では、ラーマクリシュナ・ヴェーダーンタ・ソサエティ・オブ・フィリピンおよびヴェーダーンタ・ソサエティ・オブ・コリアと協力して、昨年マニラとソウルでそれぞれスワミーの生誕150周年を祝う素晴らしい記念行事を執り行いました。どちらの祝賀会にも、現地のインド大使を始めとする高名な方々にご臨席賜り、来賓のスピーチをいただきました。マニラでの祝賀会では、フィデル・ラモス元大統領閣下、ラーマクリシュナ・ミ

ッションの支部であるインドのアドヴァイタ・アシュラマの前プレジデントであられるスワミー・ボドサラナンダジーにスピーチをいただきました。

一方、大変悲しいことに、著名な学者でヒューマニストであられ祝賀委員会の副委員長も務められた奈良毅教授が今年1月に逝去されました。ラーマクリシュナやヴィヴェーカーナンダ、ヴェーダーンタの教えを日本に広めるために、奈良教授には計り知れないほどのご貢献をいただきました。心より感謝いたします。

最後に一つ私見を申し上げたいと思います。現代世界の歴史を鑑みますと、資本主義が機能不全となり共産主義の実験が不成功に終わった今、私たちは、多元主義と協調の時代へと進まねばなりません。なぜなら、今日の先進技術により人々の距離が縮まって、世界の諸国民諸民族間における効果的な交流が課題となっており、この課題への対応策として協調と多元主義の精神を養うことが最良策であるからです。スワミー・ヴィヴェーカーナンダはこれらの概念の擁護者でした。スワミージーは個人生活と集団生活のあらゆる面で調和を提唱し、さらに、インド最古の、最も深遠かつ普遍的哲学であるヴェーダーンタの説く、意識の次元における存在の合一を礎とする調和の哲学を私たちに知らしめたのです。

ですから、特定の国の市民としてだけでなく、世界市民として、物理的な結びつきだけで争いの絶えない現在の世界を精神的に一つにすることにより、「一つの世界」の概念を現実に形あるものにするために、ヴィヴェーカーナンダとヴェーダーンタが、今、必要なのです。

最後にもう一度、本日の祝賀行事閉会式にご参列いただきました皆様を心より歓迎いたします。スワミー・ヴィヴェーカーナンダの祝福が私たち皆に降り注がれますよう、スワミージーに祈りを捧げます。



## マハーラージの活動報告

2014年5月7日(水)、マハーラージは、今年も東京国際大学言語コミュニケーション学部(埼玉県)のケビン・ミューラー准教授の招きを受け、世界の宗教についての授業で「ヒンドゥー教とスワミー・ヴィヴェーカーナンダ」をテーマに講話を行いました。出

席した 13 名の学生全員に、インドの Ramakrishna Mission Institute of Culture 発刊の英文冊子『Swami Vivekananda, the Friend of All』と、協会がスワミーとそのメッセージを一般の人や若者に紹介するために発行した日本語書籍『ヴィヴェーカーナンダの物語』を贈呈しました。この 2 冊は、1 年にわたるスワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕 150 周年祝賀記念行事を締めくくる 5 月 25 日の閉会式でも参加者に配布されたもので、閉会式の直前だったことからこの日の参加者にも進呈されました。

2014 年 5 月 19 日（月）、マハーラージは上智大学（東京）でも講話を行いました。同大学教授のシリル・ヴェリヤト神父に今年も招かれ、「インドの思想と文化」に関する授業で、約 40 名の学生を前にスワミー・ヴィヴェーカーナンダとそのメッセージ、およびインド哲学について話しました。また、『Swami Vivekananda, the Friend of All』と『ヴィヴェーカーナンダの物語』も学生一人一人に贈呈しました。

## 忘れられない物語

### 少庵と母

少庵は曹洞宗の禅の師になった。まだ修行中であつたが、父が亡くなり母の面倒を見なければならなくなったから

だった。

少庵は禅堂に行く時にいつも母を連れて行った。常に母が一緒であつたため、僧院を訪ねても僧堂に泊まることができなかつた。そこで少庵は、小さな天幕を張って母が寝泊まりできるようにしてやった。また、食べるために、写経や仏教詩を書き写すなどしてわずかな金を得た。

少庵が母のために魚を買うと、人々は少庵を嘲った。僧侶は魚を食べないことになっているからだった。少庵は気に留めなかつたが、息子が人に笑われるのを見て母は胸を痛めた。遂に母は少庵に言った。「私は尼になろうと思います。そうすれば私も魚を食べなくなりますから」そして母は尼になり、息子と一緒に仏の道を学んだ。

少庵は音楽が好きで、琴の名人だった。母も琴を弾いたので、満月の晩に二人はよく一緒に琴を弾いた。

ある晩、若い娘が二人の家の前を歩いて、琴の音を耳にした。深く感動した娘は、翌晩家に来て琴を弾いてほしいと、二人を招待した。少庵は承知し、母と共に琴を弾きに行った。数日後、通りで娘に会うと、少庵はもてなしの礼を言った。周囲の者は笑った。少庵が訪ねた家は、道端に住む貧しい女の家だったからである。



(101ZenStories.com より)

ある日、少庵は説法をしに遠くの寺に出かけた。数ヵ月後に戻ると、母が亡くなったことを知った。友人は少庵の連絡先が分からなかったため、少庵が戻った時にちょうど葬式が行われていた。

少庵は棺に歩み寄ると、杖で棺をたたいて言った。「母上、息子は今戻りました」

「お前が戻ってきてくれてよかった」と、母の代わりに少庵は答えた。

「私もです」と少庵は言った。そして、回りに集まった人々に言った。「これで葬式は終わりました。さあ、母を埋めてやってください」

やがて少庵は年を取り、自分はもう長くないのを知った。朝、弟子らを集めて、自分は正午に逝くと告げた。母と恩師の写真の前で香を焚き、詩を書いた。

五十と六年、精一杯生きた  
世俗の世を歩んで行った  
今や雨は止み、雲は晴れ  
青空には満月が浮かぶ

弟子らは少庵の回りに集まり経典を唱えた。少庵は、唱名を聞きながら息を引き取った。

## 今月の思想

「神の子である私は、我が身に起こり得るいかなることよりも偉大である」  
(A. P. J. アブドゥル・カラーム)

発行：日本ヴェーダーンタ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: [info@vedanta.jp](mailto:info@vedanta.jp)